

三 高山さんは、「高山さんの文章」を読み返し、習っている漢字がひらがなになっていた――部ア、イを漢字に書き直すことにしました。次の――部ア、イを漢字で書いていないに書きましょう。

ア きょうぎの作戦を考えたりします。

上級生が遠くからボールをイなげる

出題の趣旨

目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にし、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる。

書くことにおいて自分の考えを伝えるためには、目的や意図に応じて伝えたいことを明確にするとともに、書き表し方を工夫することが重要である。その際、第5学年及び第6学年においては、集めた材料を書く目的や意図に応じて内容ごとにまとめたり、それらを互いに結び付けて関係を明確にしたりして、伝えたいことを明確にすることが大切である。また、事実を客観的に書くこととともに、その事実と感想や意見との関係を十分捉えて書くことが大切である。

本問では、学校のよさを伝える文章を書く場面を設定した。高山さんは、集めた材料を分類したり関係付けたりして伝えたいことを明確にしたり、自分の考えが伝わるように事実と感想、意見とを区別して文章を書いたりしている。ここでは、集めた材料の共通点を考えて書くことを決めていることを捉えたり、自分の考えとそれを裏付ける事実とを区別して書いたりすることが求められる。あわせて、相手の読みやすさを考えて漢字を正しく書くことも求められる。

なお、過去の調査結果で見られた課題と関連する設問は、以下のとおりである。

- 設問一(2)は、令和5年度【小学校】国語²三(正答率62.2%)において、「情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと」に課題が見られたことを踏まえて出題した。
 - 設問二は、令和3年度【小学校】国語³二(正答率56.7%)において、「目的や意図に応じて、理由を明確にしながら、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること」に課題が見られたことを踏まえて出題した。
- また、本調査で初めて取り上げる内容に関する設問は、以下のとおりである。
- 設問一(1)では、第5学年及び第6学年の〔思考力、判断力、表現力等〕の「B書くこと」の「題材の設定、情報の収集、内容の検討」に関する指導事項を取り上げている。この指導事項を本調査で取り上げることは初めてである。

■学習指導要領に示されている言語活動例との関連

〔第5学年及び第6学年〕 思考力、判断力、表現力等 B 書くこと

ア 事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。

設問一(1)

趣旨

目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすることができるかどうかをみる。

■学習指導要領における内容

〔第5学年及び第6学年〕 思考力、判断力、表現力等 B 書くこと

ア 目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。

1. 解答類型と反応率

問題番号	解 答 類 型		反応率 (%)	正答	
②	一 (1)	1	1 と解答しているもの	3.5	
		2	2 と解答しているもの	5.5	
		3	3 と解答しているもの	9.6	
		4	4 と解答しているもの	80.3	◎
		99	上記以外の解答	0.1	
		0	無解答	0.8	

2. 分析結果と課題

- 本設問の正答率は80.3%であった。目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にできている児童が多いと考えられる。
- 解答類型3は、高山さんが、他の人の考えを取り入れて考えていると捉えており、集めた情報の共通点を考えていることを捉えることができず、【高山さんのメモ】に書かれている「校庭が広い」や「元気なあいさつ」などの内容が、他の児童の考えによるものだと考えた児童や、【高山さんの取材メモ】に着目し、その内容から他の人の考えを取り入れたと考えた児童がいたと考えられる。

3. 学習指導に当たって

目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりする

- 事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書くときには、目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして整理することが大切である。本設問は、高山さんが学校のよさを伝える文章を書くために行事や活動など学校生活から集めた情報の共通点を考え、伝えたいことを明確にしていることを捉えることが求められる。学習指導に当たっては、集めた材料を書く目的や意図に応じて内容ごとにまとめたり、それらを互いに結び付けたりしながら伝えたいことを明確にすることができるようにすることが大切である。また、考えを明確にすることがなかなかできない児童には、他の人の整理の仕方を参考にして、考えるように指導することも考えられる。なお、伝えたいことを明確にするための整理の仕方には、様々な方法がある。例えば、自分の考えを異なる立場の読み手に向けて主張する文章を書く際には、目的に応じて賛成と反対の両方の立場から考えることなどが考えられる。また、自分たちの生活をより良いものにするために提案する文章を書く際には優先順位を考えて集めた情報を並べたり、観察したことを報告する文章を書く際には起こった順に出来事を並べたりすることなどが考えられる。

こうした整理の方法について指導する際には、目的や文章の種類などに応じて情報をどのように整理するとよいのかを検討する場面を設定することも考えられる。

具体的な授業の例として、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にする指導事例を、「授業アイディア例」の情報を整理する場面に示す。

設問一(2)

趣旨

情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる。

■学習指導要領における内容

〔第5学年及び第6学年〕 知識及び技能

(2) 情報の扱い方に関する事項

イ 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。

1. 解答類型と反応率

問題番号	解答類型	反応率 (%)	正答	
②	1	1 と解答しているもの	5.0	
	2	2 と解答しているもの	87.0	◎
	3	3 と解答しているもの	4.9	
	4	4 と解答しているもの	2.1	
	99	上記以外の解答	0.1	
	0	無解答	0.8	

2. 分析結果と課題

- 令和5年度【小学校】国語②三（正答率62.2%）の問題において、「情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと」に課題があると指摘している。これに関連して、本設問では、【高山さんのメモ】の書き表し方を説明したものを選択する問題を取り上げた。本設問の正答率は87.0%であった。今回の結果から、【高山さんのメモ】における情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し適切なものを選択することについては、できている児童が多いと考えられる。
- 解答類型1、解答類型3、解答類型4の反応率の合計は12.0%であった。いずれも中央の言葉と関係する言葉を線をつないでいることを捉えることができていなかったと考えられる。これらの中には、【高山さんのメモ】において、言葉を線をつないでいることや丸で囲んでいることのみに着目し、どのように語句と語句を整理しているかを捉えないで解答している児童がいたと考えられる。

3. 学習指導に当たって

図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使う

- 図などによる語句と語句との関係の表し方とは、複数の語句を丸や四角で囲んだり、語句と語句を線でつないだりするなど、図示することによって情報を整理することを指している。図示などにより語句と語句との関係を表すことを通して、考えをより明確なものにしたり、思考をまとめたりすることができることを理解することが重要である。

本設問では、高山さんが考えを明確にするために、中央に書いた「わたしたちの学校のよさ」という言葉と関係する言葉を線でつないでいることを捉えることが求められる。

学習指導に当たっては、様々な図示の方法に触れることを通して、児童がそれぞれの方法で考えを明確にしたり思考をまとめたりすることができることを理解し、使うことができるようにすることが大切である。図示の方法については、語句と語句とを関係付けたり、一定の観点に基づいて順序立てたりするために線を用いて結ぶ表し方や、似ている事柄をまとめたり、よい点と問題点を分けたりするために丸で囲む表し方などが考えられる。その際、「B書くこと」の(1)アやイなどの材料を集めて整理したり、構成を検討したりすることに関する指導事項との関連を図り、指導の効果を高めることが考えられる。

具体的な授業の例として、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選ぶ指導事例を、「授業アイディア例」の情報を整理する場面に示す。

設問二

趣旨

目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる。

■学習指導要領における内容

〔第5学年及び第6学年〕 思考力、判断力、表現力等 B 書くこと

ウ 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。

1. 解答類型と反応率

問題番号	解答類型	反応率 (%)	正答	
②	二 (正答の条件) 次の条件を満たして解答している。 ① 「たてわり遊び」のよさについて考えたことを書いている。 ② 【高山さんの取材メモ】の下級生に聞いたことから言葉や文を取り上げて書いている。 ③ 60字以上、100字以内で書いている。 ~~~~~ (正答例) ・ 「お兄さんやお姉さんと遊べて楽しかった」という1年生や、「みんなが楽しそうでうれしかった」という4年生がいます。このように、「たてわり遊び」のよいところは、学年をこえた交流ができるところだと思います。(100字) ・ みんなが楽しく遊べるところがたてわり遊びのよいところだと思います。下級生の子どもたちからはお兄さんやお姉さんと遊べて楽しかったなどの意見があり、これからもたてわり遊びを大切にしていきたいと思います。(99字)			
	1	条件①、②、③を満たしているもの	56.7	◎
	2	条件①、②は満たしているが、条件③は満たしていないもの	0.7	
	3	条件①は満たしているが、条件②は満たしていないもの *条件③を満たしているかどうかは不問とする。	0.9	
	4	条件②は満たしているが、条件①は満たしていないもの *条件③を満たしているかどうかは不問とする。	33.0	
	99	上記以外の解答	3.8	
	0	無解答	4.9	

2. 分析結果と課題

○ 令和3年度【小学校】国語③二（正答率56.7%）の問題において、「目的に応じて、理由を明確にしなが、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること」に課題があると指摘している。これに関連して、本設問では、「たてわり遊び」のよさについて考えたことと、【高山さんの取材メモ】の下級生に聞いたことから取り上げたことを、制限字数以内で書く問題を取り上げた。

○ 本設問の正答率は56.7%であった。「たてわり遊び」のよさについて考えたことを書いて

いない解答類型4の反応率が33.0%と高いことから、目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに引き続き課題があると考えられる。

○ 解答類型4の具体的な例としては、以下のようなものがある。

(例)

- ・ その結果、「お兄さんやお姉さんと遊べて楽しかった」という1年生や、「好きな遊びや新しい友達が増えた」という3年生、「みんなが楽しそうだった」という4年生がいました。(82字)
- ・ たてわり遊びをしている下級生の1年生は「お兄さんやお姉さんと遊べて楽しかった」や、3年生は「好きな遊びや新しい友達が増えた」と答えてくれました。このように、みんなでたてわり遊びをしました。(94字)
- ・ たてわり遊びについて、下級生からは、「新しい友達が増えた」、「みんなが楽しそうであれしかった」などの声がありました。また、色が決まっているので、だれがどこかわかります。(84字)
- ・ 6年生が下級生に遊びたいことを聞いたり、ルールを工夫したりしています。例えばドッジボールでは、上級生が遠くからボールを投げています。1年生は「お兄さんやお姉さんと遊べて楽しかった」と言っています。(98字)

このように解答した児童は、【高山さんの取材メモ】の下級生に聞いたことから言葉や文を取り上げて書いているが、「たてわり遊び」のよさについて考えたことは書いていない。この中には、書く目的や意図が明確ではなく、「たてわり遊び」のよさについて書く必要があることを認識していなかった児童がいたと考えられる。また、「たてわり遊び」のよさを認識しているものの、そこから自分の考えをもつことができず、事実と感想、意見とを明確に区別せずに、事実を自分の考えのように書いてしまった児童がいたと考えられる。さらに、「運動会」や「ルール」についてなど、この段落において本来書く内容ではないことを取り上げて書いた児童もいたと考えられる。

3. 学習指導に当たって

事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する

○ 事実と感想、意見とを区別して書くためには、事実を客観的に書くこととともに、その事実と感想や意見との関係を十分捉えて書くことが重要である。このことは、自分の考えたことなどが客観的な事実裏付けられたものになっているかどうかを振り返り、自分の考えをより深めていくことにもつながる。また、事実と感想、意見とを明確に区別して書くためには、文末表現に注意することも重要である。

本設問では、高山さんが、【取材メモ】を基にして「たてわり遊び」のよさを書こうとしている。「たてわりはん」という共通した取組に注目して「運動会」と「たてわり遊び」を取り上げ、の部分を含む段落では「たてわり遊び」のよさを書こうとしていることや、自分の考えた「たてわり遊び」のよさが伝わるように、下級生に聞いたことを客観的な事実として取り上げて書こうとしている目的や意図を理解することが求められる。

学習指導に当たっては、文章を書く目的や意図に応じて伝えたいことを明確にし、客観的な事実を取り上げることで考えをより深めていくことができるようにすることが大切である。そのためには、取り上げた事実が、自分の考えを裏付けるものになっているかどうかを振り返り、事実と考えとの関係を明確にできるようにする必要がある。その際、内容に注目

して、文章全体に一貫性があるかを確認したり、文末表現に注目して、事実と考えを適切に区別しているか、事実と考えを混同して書いているかを確認したりする場面を設定することも大切である。事実あるいは考えのどちらかが不足している児童には、伝えたいことを児童同士で交流しながら、それを支える事実としてふさわしいものを取り上げられているかを確認したり、事実を裏付けとすることでどのような考えを伝えたいのかを確認したりすることができるよう、児童同士で書いた文章を読み合い確かめ合う場面を設定することも効果的である。事実と考えを区別して書くことができている児童には、主語や文末表現を意識して文章を見直すように促すなど、教師が個別に指導することも考えられる。

具体的な授業の例として、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する指導事例を、「授業アイデア例」の記述する場面に示す。なお、「授業アイデア例」における児童の反応例については、解答類型3に該当する例を「星野さん」、「大橋さん」、解答類型4に該当する例を「山田さん」、「中島さん」、「小林さん」として示している。

設問三

趣旨

学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる。

■学習指導要領における内容

〔第5学年及び第6学年〕 知識及び技能

(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項

エ 第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。

1. 解答類型と反応率

問題番号	解 答 類 型		反応率 (%)	正答
②	三 ア	1 「競技」と解答しているもの	43.6	◎
		2 「競」と解答しているが、「技」と解答していないもの	11.0	
		3 「競」と解答していないが、「技」と解答しているもの	14.0	
		99 上記以外の解答	18.2	
		0 無解答	13.1	
三 イ		1 「投(げる)」と解答しているもの	76.1	◎
		99 上記以外の解答	16.0	
		0 無解答	7.9	

2. 分析結果と課題

○ 三アの正答率は43.6%であった。学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことに課題があると考えられる。

○ 三アの解答類型2と解答類型3、解答類型99の反応率の合計は43.2%である。これらの中には、「競」の「立」の部分で「土」と解答している児童や、「口」の部分で「日」と解答している児童が見られた。また、「競」と似た読み方をする「球」と解答している児童も

見られた。さらに、「技」と同じへんやつくりをもつ「投」や「枝」と解答している児童が見られた。

- 三イは、平成20年度【小学校】国語 A **1**ニ(1)（正答率82.7%）と同一の漢字を扱った問題である。本問の正答率は76.1%である。解答類型99の反応率は16.0%である。この中には、同じ部分をもつ「役」、「技」と解答している児童や、「球」と解答した児童が見られた。

3. 学習指導に当たって

文や文章の中で、漢字を正しく使う

- 漢字を書くことについては、当該学年の前の学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使おうとする習慣を身に付けるようにするとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うようにすることが重要である。

第5学年及び第6学年は、漢字による熟語などの語句の使用が一層増加する時期であるため、漢字のもつ意味を考えて使う習慣が身に付くようにすることが大切である。

その際、〔知識及び技能〕(1)言葉の特徴や使い方に関する事項「ウ 文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと」や「オ 思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと」との関連を図り、指導の効果を高めることが考えられる。

学習指導に当たっては、以下の資料も参考になる。

(参照)

- ① 「平成28年度【小学校】報告書」 p. 27
<https://www.nier.go.jp/16chousakekkahoukoku/report/data/16plang.pdf#page=31>
- ② 「平成29年度【小学校】報告書」 pp. 48-50
<https://www.nier.go.jp/17chousakekkahoukoku/report/data/17plang.pdf#page=52>
- ③ 「平成30年度【小学校】報告書」 p. 49
<https://www.nier.go.jp/18chousakekkahoukoku/report/data/18plang.pdf#page=52>

本問全体の学習指導に当たって

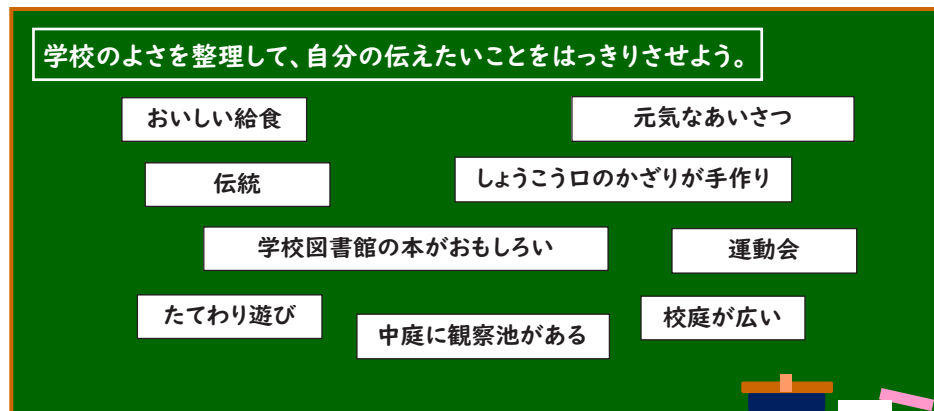
授業アイデア例

<p>「学校のよさを伝える文章を書こう」</p> <p>～目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にし、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する～</p>	<p>〈実施対象学年〉</p> <p>第5・6学年</p>
---	-------------------------------

目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題が見られました。そこで、本授業アイデア例では、令和6年度全国学力・学習状況調査【小学校】国語²に登場する高山さんが情報を整理する場面と、個々の児童が記述する場面を取り上げ、伝えたいことを明確にし、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する指導事例を紹介します。

<p>情報を整理する場面</p>	<p>目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にする</p>
------------------	--

◇ 高山さんたちの学級では、学校のよさを伝える文章を書くという学習を行っています。高山さんたちは、学級のみんなで出し合った学校のよさをそれぞれ整理しています。



「学校のよさ」がたくさん出てきましたね。どのように整理したらよいでしょうか。



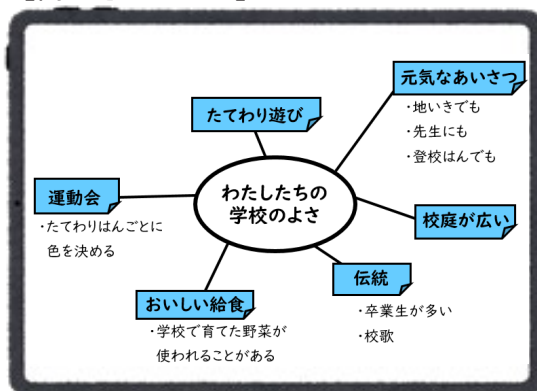
教師



高山さん

自分が考える「学校のよさ」に関係のある内容を線でつないで、情報を整理してみよう。

【高山さんのメモ】



考えが整理されてきた。

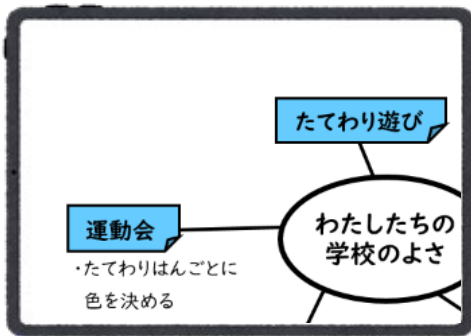


ぼくが伝えたい「学校のよさ」は…

メモをさらに整理してみると、目的に応じて書きたい事柄が明確になりそうですね。



【高山さんのメモ】



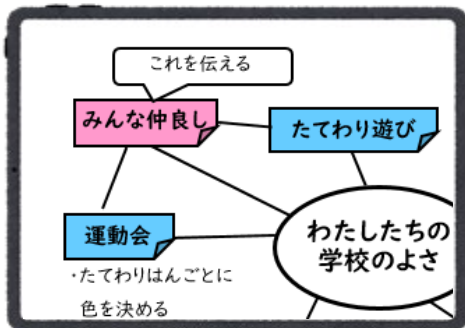
「たてわり遊び」と、「運動会」は、どちらも1年生から6年生までが同じ「たてわりはん」で活動しているという共通点があるな。

共通していることについて、キーワードや短い文などで書き表すと、自分の考える「学校のよさ」が明確になりますね。



教師

【高山さんのメモ】



「たてわり遊び」と「運動会」は、どちらも1年生から6年生までが同じ「たてわりはん」で活動していて、**みんなが仲良し**になる。このことが学校の一番のよさだと思うから、文章に書こう。

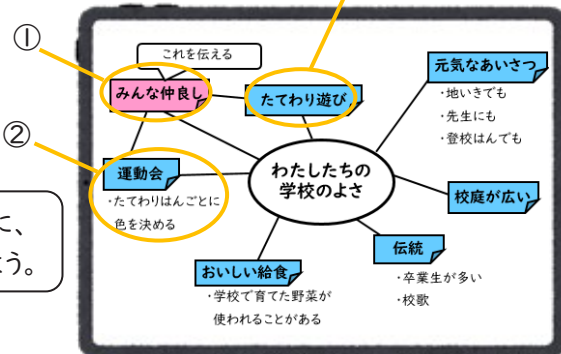


ぼくは「みんな仲良し」が「学校のよさ」だと思っているけれど、他の学年の子たちはどのように感じているのかも聞いておきたいな。

「学校のよさ」を伝えるために、他の学年の子たちに取材をしてみるのもよいですね。



【高山さんのメモ】③



メモを基に、構成を考えよう。

【高山さんの構成メモ】

①	たてわりはんの取り組みの説明
②	・運動会の説明 ・運動会のよさ
③	・たてわり遊びの説明 ・たてわり遊びのよさ

ポイント

- 複数の語句を丸や四角で囲んだり、語句と語句を線でつないだりして情報を整理することで、伝えたいことが明確になることを児童が実感できるようにすることが大切です。
- 児童が情報を整理する中で足りない情報に気づき、再取材を行ったり、必要に応じて、別の立場からの情報を収集したりすることができるよう、単元構成を工夫することが考えられます。

記述する場面	目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する
--------	---

◇ 児童は、メモに整理したことを基に、それぞれが考えた学校のよさを伝える文章を書いています。

【事実や考えを書くことにつまずいている児童への指導】

○ 教師は、児童一人一人の状況からできていることやつまずいていることを捉え、児童が自分の課題に気付けるようにするために、児童同士で読み合うように促します。



「学校のよさ」を伝えるという目的に応じて、具体的な下級生の言葉を「事実」として、よさを自分の「考え」として区別して書くことよさそうですね。

教師



星野さん

たてわり遊びのよいところは、みんなが楽しく遊べる所です。ルールを工夫したり、やりたいことを聞いたりして相手を思いやる心が育つことも、よさだと思います。

「事実」を書くことにつまずいている

◎ 「みんな仲良し」であることを「学校のよさ」として伝えるために、「たてわり遊び」のよいところが書いているな。
 △ よさは書いているけれど、**取材メモの下級生に聞いたことから言葉や文を取り上げて書いていないな。**
 ★ 自分の考えを相手に伝えるためには、**事実と関係付けて書くことよきことに気付かせて、取材メモのどの事実を取り上げるとよいかを考えさせたいな。**



山田さん

その結果、「お兄さんやお姉さんと遊べて楽しかった」という1年生や、「好きな遊びや新しい友達が増えた」という3年生、「みんなが楽しそうであれしかった」という4年生がいました。

「事実」は書けているが、「考え」を書くことにつまずいている

◎ 取材メモから下級生の感想を具体的に取り上げて書くことができているな。
 △ 取材メモから言葉や文を取り上げて書いているけれど、**よさについて考えたことを書いていないな。**
 ★ 下級生の感想は、どのような考えを伝えるために取り上げたのか、**文章を書く目的を確かめて、「たてわり遊び」のよさを考えさせたいな。**



中島さん

たてわり遊びをしている1年生は「お兄さんやお姉さんと遊べて楽しかった」や、3年生は「好きな遊びや新しい友達が増えた」と答えてくれました。みんなたてわり遊びを楽しんでいました。

◎ 取材して分かった下級生の感想から、実際にみんなが活動を楽しんでいることを書くことができているな。
 △ 取材メモの言葉や文を「たてわり遊び」のよさと混同し、**自分の考えとして書いていないな。**
 ★ **みんなが活動を楽しんでいることを、「たてわり遊び」のよさとして、事実と区別して書くためには、どのように工夫したらよいかに気付かせたいな。**

◎:できていること
 △:つまずいていること
 ★:指導

互いの文章を読み合っ、書き表し方を見直してみましょう。「学校のよさ」を伝えるために、自分の考える「学校のよさ」が書かれているか、下級生に聞いたことが「事実」として取り上げられているか、確かめてみましょう。



星野さん

たてわり遊びのよいところは、みんなが楽しく遊べるところです。ルールを工夫したり、やりたいことを聞いたりして相手を思いやる心が育つことも、よさだと思います。



山田さん

その結果、「お兄さんやお姉さんと遊べて楽しかった」という1年生や、「好きな遊びや新しい友達が増えた」という3年生、「みんなが楽しそうであれしかった」という4年生がいました。



中島さん

たてわり遊びをしている1年生は「お兄さんやお姉さんと遊べて楽しかった」や、3年生は「好きな遊びや新しい友達が増えた」と答えてくれました。みんなたてわり遊びを楽しんでいました。

星野さんのように、たてわり遊びのよさについて考えたことを書くといいな。メモに書いた「伝えたいこと」をもう一度確かめよう。



どこが私の考えか分かりづらいな。どうしたらよいだろう。



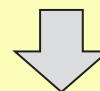
山田さんのように、下級生に聞いたことを書くと、より自分の考えが伝わる文章になるな。4年生の言葉を具体的に入れてみよう。



中島さんは、「事実」と「考え」を区別して書きたいのですね。みんなが楽しんでいたことを「たてわり遊び」のよさとして、文末表現を工夫して書いてみてはどうでしょう。



教師



たてわり遊びのよいところは、相手を思いやる心が育つところだと思います。たてわり遊びの感想を4年生に聞いてみると、「みんなが楽しそうであれしかった」と言っていました。

その結果、「お兄さんやお姉さんと遊べて楽しかった」という1年生や、「好きな遊びや友達が増えた」という3年生がいました。たてわり遊びのよいところは、どの学年も楽しむことができるところだと思います。

1年生は「お兄さんやお姉さんと遊べて楽しかった」、3年生は「好きな遊びや新しい友達が増えた」と言っていました。このように、みんなが活動を楽しむことができるのがたてわり遊びのよいところだと思います。

目的に応じて、「事実」や「考え」を取り上げて書いたり、「事実」と「考え」とを区別して書き表す工夫をしたりすることで、伝わりやすい文になりましたね。



【事実と考えの関係を捉えることにつまずいている児童への指導】

○ 教師は、児童一人一人の状況からできていることやつまずいていることを捉え、実態に応じて文章を見直す観点を示します。



大橋さん

たてわり遊びのよいところは、他の学年と交流を深められることだと思います。どうしてかという、あまりそういう機会がないからです。そして実際にみんなでつな引きをして楽しいという意見も出ているからです。

適切な「事実」を取り上げることに
つまずいている

- ◎ 文末表現や書き出しの言葉を工夫して、たてわり遊びのよいところが書けているな。
- △ よさは書いているけれど、**たてわり遊びではなく運動会の事実を取り上げて書いているな。**
- ★ 実際に楽しく活動している様子も書くことができているが、**この部分で伝えたいよさと合っているか確かめさせたいな。**



教師



小林さん

たてわり遊びについて、下級生からは、「新しい友達が増えた」、「みんなが楽しそうであれしかった」などの声がありました。たてわり遊びは長く続けられているよい活動だと思います。

伝えたい「考え」を書くことに
つまずいている

- ◎ 取材メモにある下級生に聞いたことを、事実と考えを文末表現に気を付けて書き分けることができているな。
- △ 取材メモから言葉や文を取り上げて書いているけれど、**もともと伝えようとしていたよさについて書いていないな。**
- ★ **もともと伝えたいと考えていた「学校のよさ」を確かめさせたいな。**

- ◎:できていること
- △:つまずいていること
- ★:指導

伝えたいことが書き表されているか、構成メモやメモを振り返って確かめてみましょう。

【大橋さんの構成メモ】

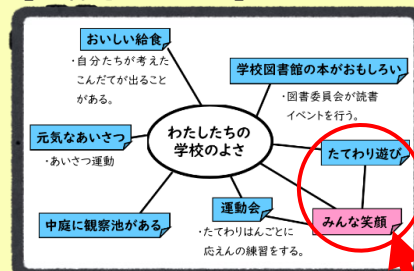
①	たてわりはんの 取り組みの説明
②	・運動会の説明 ・運動会のよさ
③	・たてわり遊びの説明 ・たてわり遊びのよさ

つな引きは運動会の事例だから、この段落ではたてわり遊びの事例について書けばいいんだ。



たてわり遊びのよいところは、他の学年と交流を深められることだと思います。どうしてかという、あまりそういう機会がないからです。**3年生は、たてわり遊びをきっかけに「新しい友達が増えた」と話していました。**

【小林さんのメモ】



メモを見返してみると、伝えたいことは、「**みんな笑顔**」ということだったな。



たてわり遊びについて、下級生からは、「新しい友達が増えた」、「みんなが楽しそうであれしかった」などの声がありました。**他学年との関わりが増え、みんなが笑顔になるところが、たてわり遊びのよさだと思います。**

ポイント

- 活動の中で、児童一人一人の状況からできていることやつまづいていることを捉え、一人一人の実態に応じて指導することが大切です。
- 文章を書く目的や意図を確認して伝えたいことを明確にしたり、事実が考えを裏付けるものとなっているかどうかを確認したりできるようにすることが大切です。
- 協働的な学びの中で、児童自身が主体的に学習を進めることができるようにするために、書き表し方の工夫について話し合う場面を設定することも考えられます。
- 伝えたいことがより明確に書き表せるようにするために、教師が観点を明確に示し、児童が書いた文章を自身で読み返したり友達と確かめ合ったりすることも効果的です。
- 事実や考えとして記述したそれぞれの文の主語を確かめ、何について書いているかをはっきりさせるよう促すことも考えられます。